

涌谷町観光振興計画 (素案)

平成29年5月

涌 谷 町

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
(1) 計画策定の背景と目的	1
(2) 計画の位置づけ	1
(3) 計画の期間	1
第2章 涌谷町を取り巻く観光の動向.....	2
(1) 上位関連計画.....	2
(2) 日本人の国内観光旅行の動向.....	3
(3) 訪日外国人観光客の動向.....	4
(4) 地域別の観光の状況.....	6
(5) 宮城県の観光の状況.....	6
第3章 涌谷町の観光特性と課題.....	9
(1) 涌谷町の観光資源の分布と特性.....	9
(2) 涌谷町の観光入込客数の動向.....	12
(3) 町民の意向等.....	12
(4) 涌谷町の観光振興に関わる課題.....	14
第4章 観光振興の将来像と基本方針.....	16
(1) 観光振興の将来像	16
(2) 観光振興の基本方針.....	17
第5章 主要施策の設定.....	18
(1) 独自のわくやブランドの創出、 ^{こがね} 黄金の里の魅力の増進	18
(2) 東北の主要な観光地を巡る広域観光客の誘客戦略の構築と効果的な観光PRの展開.....	21
(3) 涌谷のおもてなしを担う人材育成とリピーターや身近な涌谷ファンの創出.....	22
第6章 重点施策の設定.....	24
第7章 推進体制と進行管理.....	28
(1) 計画の推進体制.....	28
(2) 観光振興に関わるプロジェクトの編成	29
(3) プロジェクト推進プロセス	31
(4) 計画の進行管理.....	33
巻末資料 その他バックデータ	34

第1章 計画策定の趣旨

(1) 計画策定の背景と目的

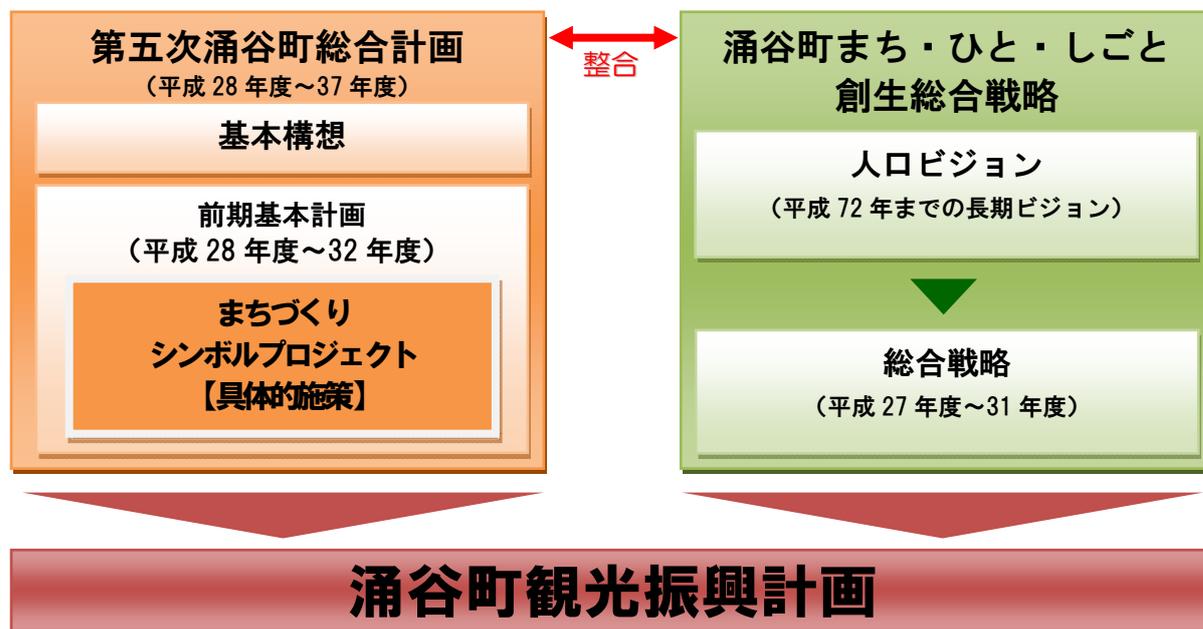
本町は、平成28年3月に第五次涌谷町総合計画を策定し、「^{こがね}黄金花咲く交流の郷 わくや — 自然・歴史を活かした健康輝くまち —」を将来像として掲げ、外から町を訪れる交流人口の増加により経済活性化を高め、移住・定住化の促進等を図ることを目指しています。

また本町は、天平時代に奈良大仏の造営に関わる歴史上初の産金の地であり、神社仏閣などの歴史・文化的遺産も豊富であるとともに、町の中央部に位置している篔岳山を中心として自然資源についても恵まれています。そして、町内の観光施設としても日本最初の産金をテーマとした天平ろまん館や温泉施設わくや天平の湯が開設されており、四季折々のイベントも開催されています。

そのため、近年の観光客のニーズや社会情勢の変化を的確に把握し、これら豊かな地域資源を連携して活用するとともに、魅力的な情報発信を行い、多くの人が訪れる観光地を目指すため、「涌谷町観光振興計画」を策定するものです。

(2) 計画の位置づけ

涌谷町観光振興計画の策定は、第五次涌谷町総合計画の前期基本計画（まちづくりシンボルプロジェクト）及び涌谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略の総合戦略に位置づけられています。



(3) 計画の期間

本計画の期間は、上位計画である総合計画前期基本計画及び総合戦略を踏まえて、以下の5年間とします。なお、5年後に計画の進捗状況について評価を行い、計画の見直しを行うこととします。

計画期間：平成29（2017）年度～平成33（2021）年度

第2章 涌谷町を取り巻く観光の動向

(1) 上位関連計画

① 国の観光施策

【明日の日本を支える観光ビジョン (H28.3)】

国では、平成 18 年に「観光立国推進基本法」を制定し、「観光立国」の実現を目指した施策を展開しており、平成 28 年には「明日の日本を支える観光ビジョン～世界が訪れたい日本へ～」を策定し、東北の観光復興等を含めて、特に訪日観光の一層の拡大を目指しています。

訪日観光拡大に向けては、近年、アジア諸国を中心にビザ要件の緩和施策を推進しており、アジアからの訪日観光客の増大の効果が評価されています。

【東北観光アドバイザー会議の提言 (H28.4 復興庁)】

全国的な訪日観光の急増の流れ、「明日の日本を支える観光ビジョン」等によるさらなる訪日観光拡大の推進を受けて、今後の東北の観光復興の 8 つの方向性が提言されました。

現状と課題の分析から、「台湾・中国・タイなどの成長市場」、「海外における東北の観光地の認知度が低い一方でその高い潜在力」、「防災・復興等の「学びの場」としての価値があるなど、観光にとどまらない交流機会創出の可能性」が指摘されています。

② 宮城県

【第3期みやぎ観光戦略プラン (H26.3)】

宮城県では、平成 26 年度～平成 29 年度を計画期間として「第3期みやぎ観光戦略プラン」を策定し、観光の課題に対応する 5 つの取組の柱と 12 の具体的プロジェクトをまとめています。

「観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充」の取組の一環として、涌谷町において「歴史史跡めぐり設定」(平成 26 年度)として周遊コース設定・周遊ガイドの作成、涌谷町観光物産協会において「観光ガイド養成」(平成 26 年度～29 年度)を実施しています。

③ 涌谷町

【第五次涌谷町総合計画 (H28.3)】

本計画は平成 28～37 年度を計画期間とし、将来像を「黄金花咲く交流の郷 わくや — 自然・歴史を活かした健康輝くまち —」と定めています。

【涌谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H28.3)】

本戦略は平成 27～31 年度を計画期間とし、「人口減少と地域経済縮小の克服」、「まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立」を目指した総合的な戦略を策定したものです。なお、本戦略は第五次総合計画前期基本計画のまちづくりシンボルプロジェクトと整合するものです。

基本目標 1 の「わくや交流の推進」の中で、4 つの具体的施策を推進し、観光客の誘致拡大を目指しています。基本目標 3 の「協働まちづくりの進展」においては、「涌谷町かがやく協働まちづくり研究所」事業を推進するものとしています。具体的事業として、『涌谷まち・ひとデザインラボ』を設置し、平成 27 年 12 月から町民が主体となって、涌谷町の観光や物産の価値を発掘し、開発・振興を行い、「わくやブランド」創造に取り組んでいます。平成 28 年 6 月からは第 2 期の活動を開始しています。

(2) 日本人の国内観光旅行の動向

2015年(平成27年)の日本人の国内日帰り観光旅行は延べ1億9370万人(対前年比2.7%増)、国内宿泊観光旅行は延べ1億7169万人(対前年比7.3%増)となっています。

2015年(平成27年)の一人一回あたりの旅行単価は、国内日帰り観光は16,125円/人・回(対前年比4.4%増)、国内宿泊観光旅行は56,086円/人・回(対前年比6.3%増)で2011年以前の水準への回復傾向が見られます。

図 日帰り、宿泊別日本人の国内観光旅行延べ旅行者数の推移

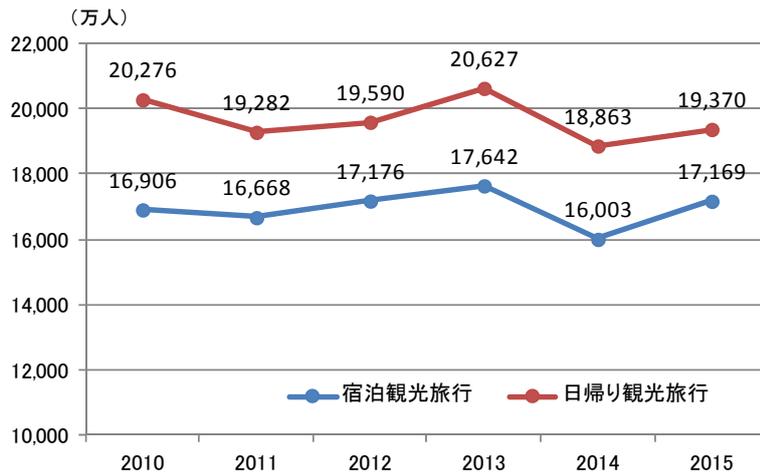
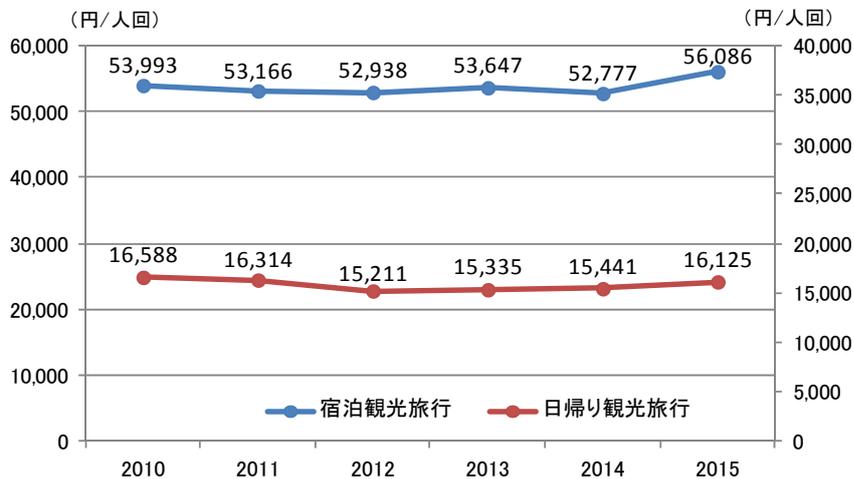


図 日帰り、宿泊別日本人の国内観光旅行の一人一回あたり旅行単価の推移



資料：「旅行・観光消費動向調査」観光庁
*旅行目的3区分のうち「観光・レクリエーション」の数値

(3) 訪日外国人観光客の動向

① 訪日外国人観光客数の状況

2015年（平成27年）の訪日外国人旅行者数は1,974万人（対前年比47.1%増）で震災前の2.3倍となっています。2009年（平成21年）のリーマンショック、2011年（平成23年）の東日本大震災の影響で、各2年は大きく減少しましたが、2012年（平成24年）以降は著しく増加しています。2015年（平成27年）の地域別では、アジアが約84%を占めています。国別では、中国499万人、韓国400万人、台湾368万人、次いで香港152万人、米国103万人の順で上位を占め、2013年（平成25年）以降、中国の増加が顕著です。

訪日外国人観光客増加の要因として、近年の円安傾向、およびアジア諸国を中心とした積極的なビザ要件の緩和施策の効果が考えられます。

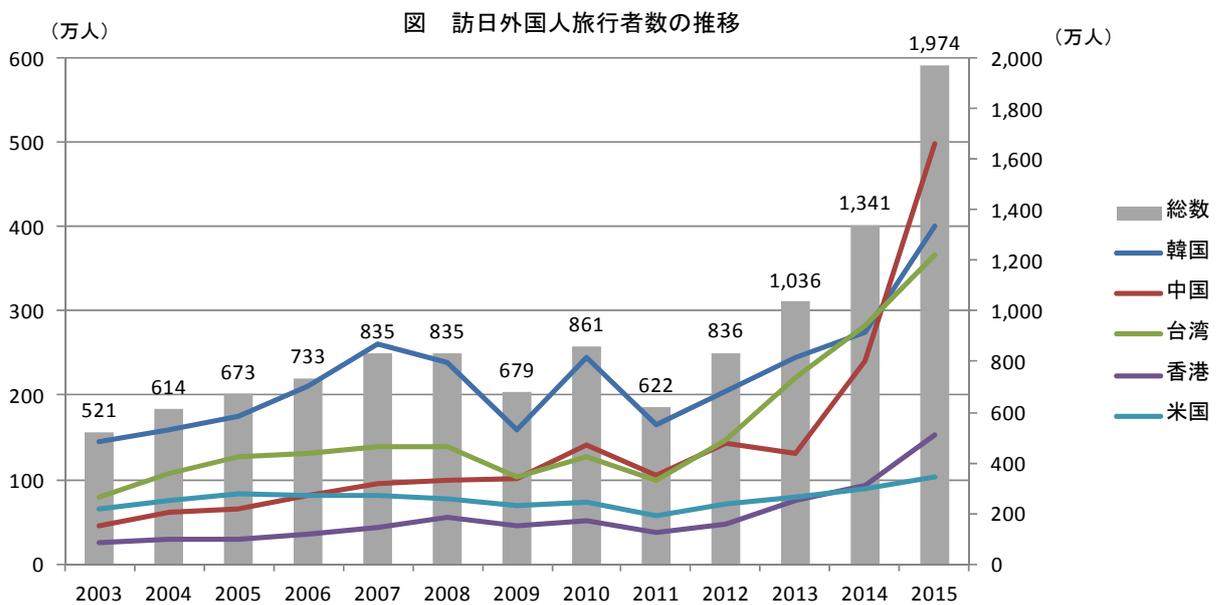
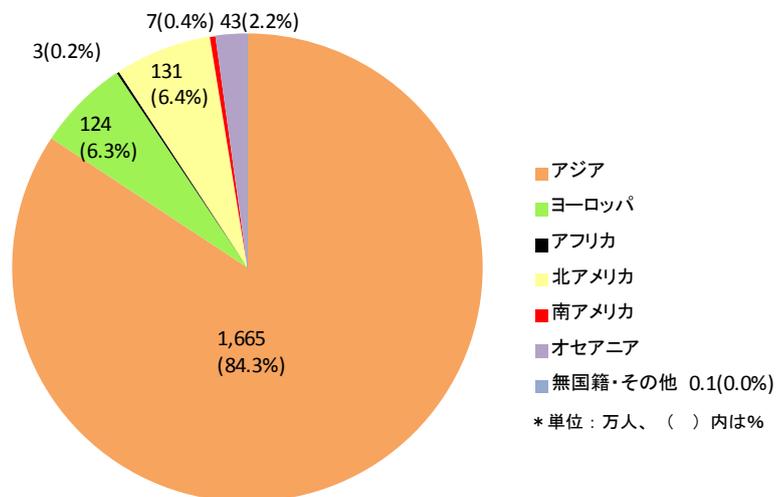


図 地域別の訪日外国人旅行者数の構成（2015年（平成27年））



資料：「訪日外客統計」日本政府観光局（JNTO）

② 訪日外国人の観光目的・意向等

「訪日外国人消費動向調査結果及び分析」（平成 27 年年次報告書 観光庁）によると、訪日外国人観光客の日本滞在中の行動は、「日本食を食べること」95.8%、「ショッピング」84.1%、「繁華街の歩き」71.2%、「自然・景勝地観光」64.0%が上位を占めています。また、日本滞在中にあると便利な情報としては、「無料 Wi-Fi」53.3%、「交通手段」47.7%の希望が多くなっています。

地方観光地に対する訪問意向について見ると、「ぜひ旅行したい」、「機会があれば旅行したい」が全体で 93%に達しています。特に地方訪問経験のある外国人の訪問意向が高くなっています。地方観光でしてみたいことは、自然観光地や歴史的街並み・建築物訪問や温泉を楽しむことのほか、郷土料理やその土地の名物の食材を味わうことが上位を占めています。

図 訪日外国人の日本滞在中の行動

(今回したことと次回したいこと (全国籍・地域、複数回答))

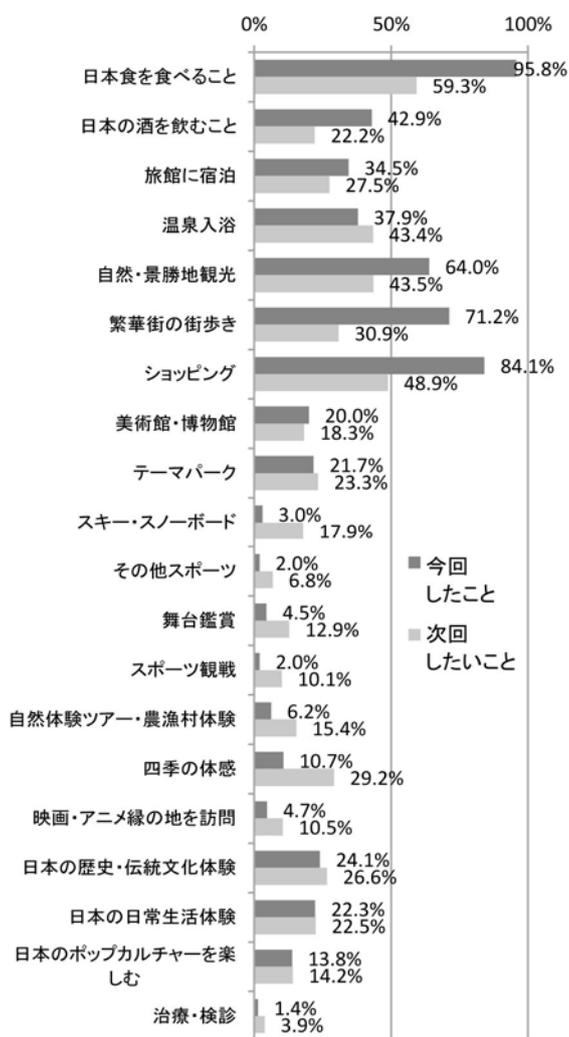
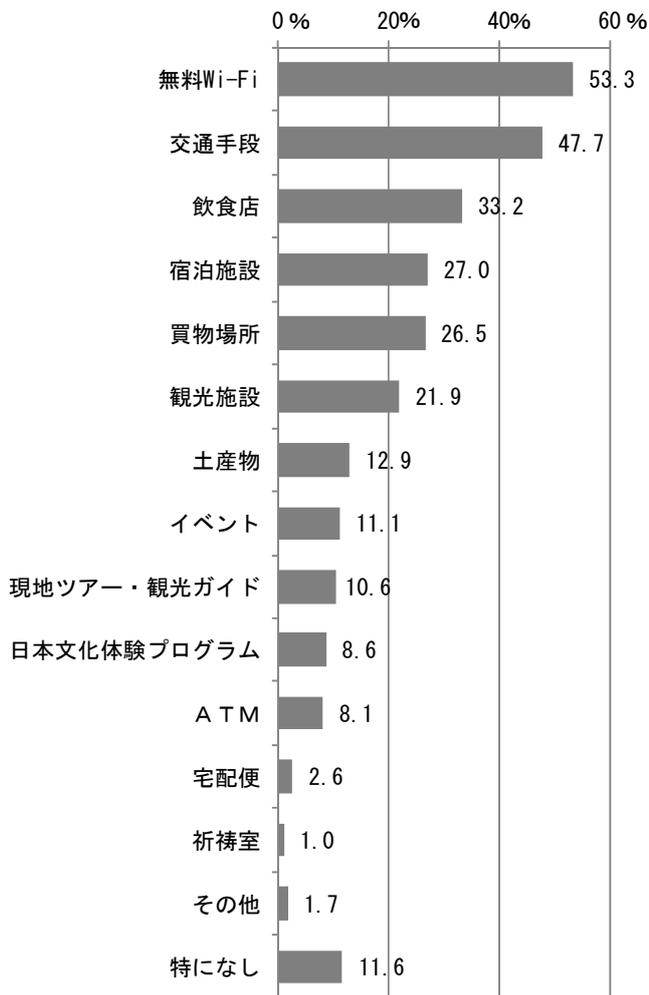


図 日本滞在中にあると便利な情報

(全国籍・地域、複数回答)



資料：「訪日外国人の消費動向 訪日外国人消費動向調査結果及び分析」平成 27 年年次報告書 観光庁

(4) 地域別の観光の状況

① 観光目的の宿泊客数の状況

2015年（平成27年）の観光旅行延べ宿泊者数（外国人を含む）は、東北を除く各地域で震災前の2010年（平成22年）の水準以上に回復していますが、東北は震災前の約9割で震災以降横ばい傾向にあります。

外国人観光旅行延べ宿泊客数は、東北を除く各地域で震災前の2010年（平成22年）の水準の2倍以上の伸びを示しています。東北は震災時の落ち込みから回復基調にあり、2015年（平成27年）は震災前の約9割となっています。

東北の外国人観光旅行延べ宿泊客数を国別に見ると、台湾が3割強を占め最も多く、次いで韓国、アメリカ、中国、タイと続いています。国別に震災前と比較すると、韓国、香港は減少しており震災の風評被害の影響とみられている一方、台湾、アメリカ、中国、タイは延べ宿泊客数が伸びています。

図 地域ブロック別観光旅行延べ宿泊者数（外国人を含む）の推移

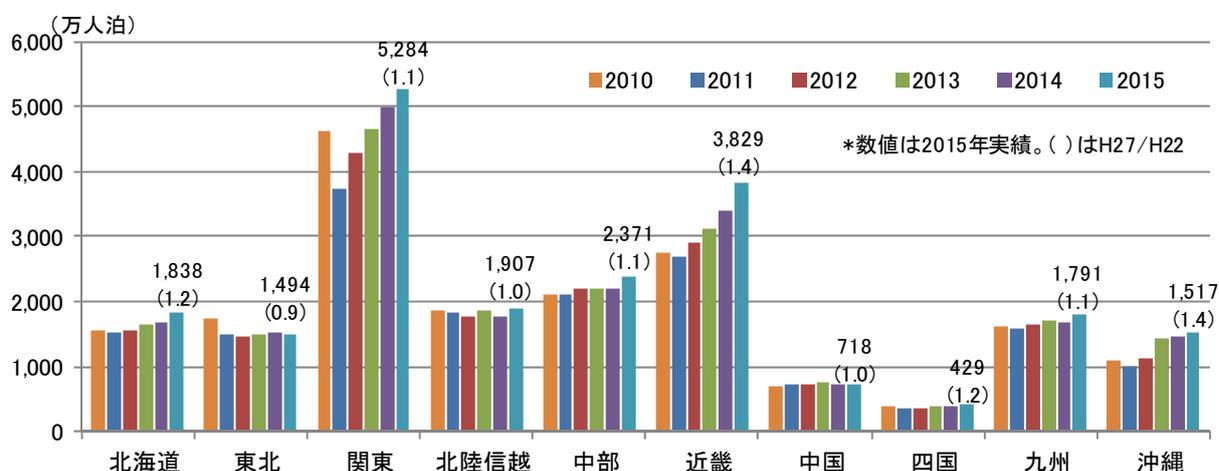
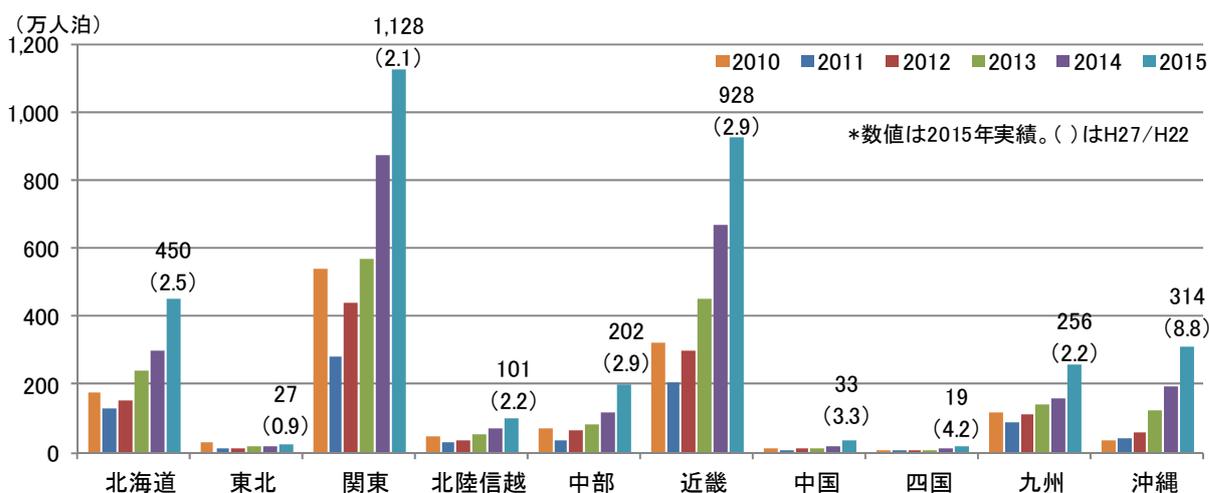


図 地域ブロック別外国人観光旅行延べ宿泊者数の推移



資料：「宿泊旅行統計調査」 観光庁

* 従業員10人以上で観光目的の宿泊客が50%以上の宿泊施設の実績

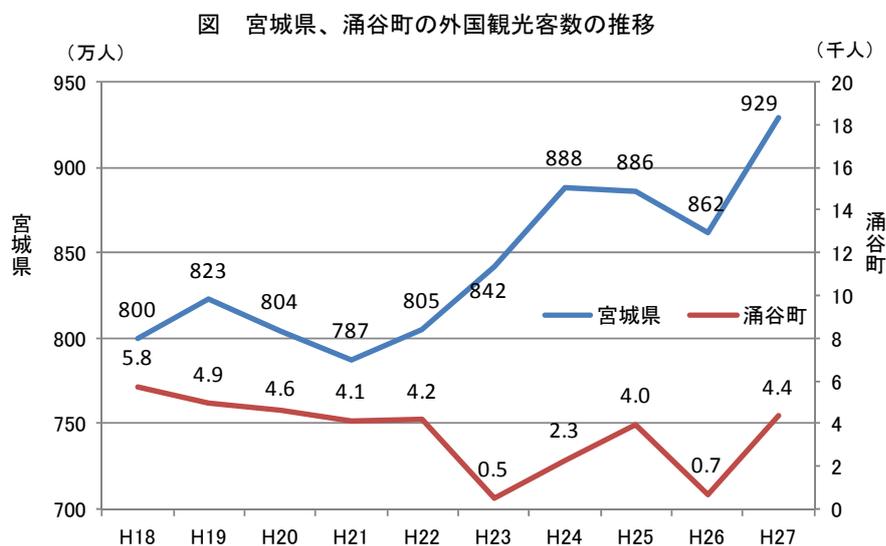
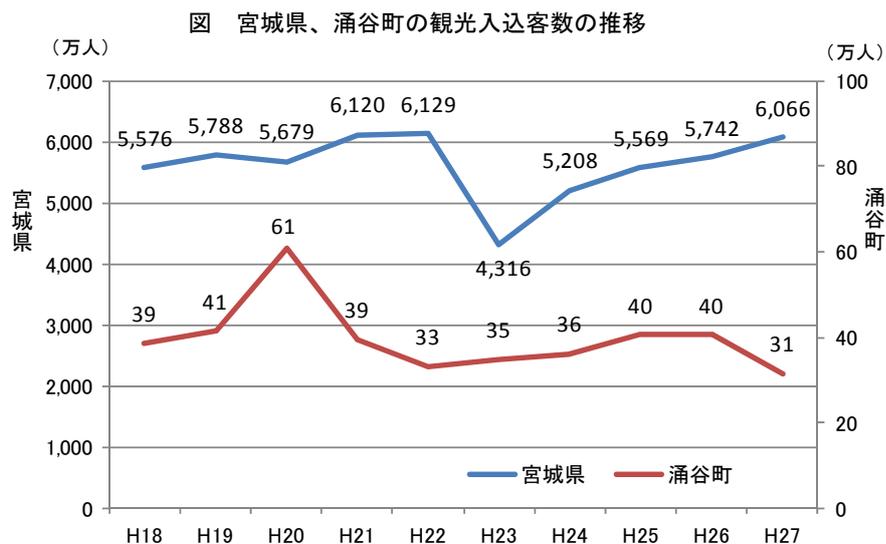
(5) 宮城県の観光の状況

① 市町村別観光客入込数

2015年（平成27年）の市町村別観光客入込数は、仙台市が約2,229万人で圧倒的に多く、県合計（6,066万人）の4割弱を占めています。涌谷町は、約31万人で県内28位に位置しています。

観光入込客数の推移を見ると、宮城県では震災により落ち込んでいますが、その後回復傾向にあります。涌谷町では概ね横ばい傾向となっていますが、平成27年には落ち込みが見られます。

外国観光客数の推移を見ると、宮城県では増加傾向にあります。涌谷町では年次により増減を繰り返しており、一定の外国観光客数が定着していないと考えられます。



資料：宮城県観光統計概要（平成27年）宮城県経済商工観光部観光課

②観光客の行動等の状況

「観光動態調査（平成 25 年 3 月 宮城県経済商工観光部観光課）」によると、宮城県内の観光客の年代は、30 代～60 代までがそれぞれ概ね 20%となっています。誘客範囲は、『宮城県内客』が全体の 5 割強、『東北 6 県居住者』は約 7 割、次いで東京圏が 2 割弱で、中部圏以西は 1 割未満に留まっています。交通手段も誘客範囲に対応して自動車が 72%と圧倒的に多くなっています。

旅行形態は、日帰りと宿泊の比率がほぼ半々で、全体の県内の平均宿泊数は 1.4 泊です。宮城県への来訪回数は、全体で「4 回以上」が約 4 割で最も多く、複数回来訪が半数を超えています。

来訪目的は、「自然の美しさややすらぎを求めて」が半数超で、次いで「温泉や郷土料理」、「名所旧跡」の順となっています。

立ち寄り先の地点別では、仙台が約 3 割で最も多く、次いで松島が 2 割強を占め、そのほか「平泉」、「鳴子・鬼首」が上位となっています。また、来訪の際の情報入手経路は、「家族や親戚の話し合い」が 35.5%、次いで「インターネット」が 22.3%で、宿泊地点全体では「インターネット」が 45.6%と圧倒的に多くなっています。

図 誘客範囲の地域別構成

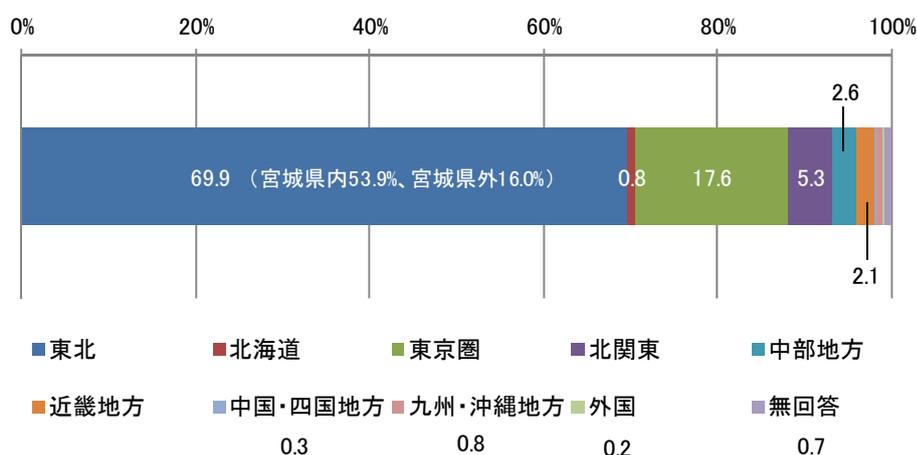


図 来訪回数



資料：観光動態調査（平成 24 年度）（平成 25 年 3 月）宮城県経済商工観光部観光課

第3章 涌谷町の観光特性と課題

(1) 涌谷町の観光資源の分布と特性

- 籠岳とその周辺には奈良・平安の歴史的風土を伝える資源が多く分布し、豊かな自然を満喫できる環境があります。

- ・ 籠岳を中心とした自然豊かな丘陵地及びその周辺に、籠峯寺、黄金神社、天平ろまん館、追戸・中野横穴古墳群など、歴史的な資源が分布しています。なかでも黄金山産金遺跡は日本最初の産金地として東大寺大仏建立に金を献上したことで有名であり、産金をテーマとした天平ろまん館には香港や台湾などの海外観光客も含め年間約6千人が訪れています。
- ・ 籠岳の山頂付近に立地する籠峯寺は平安時代に坂上田村麻呂が清水寺より十一面観音を勧請して創建したと伝えられ、三十三年に一度ご開帳されます。白山社に正月の神事として伝わる白山祭は県の重要無形文化財に指定されているほか、石仏広場で毎年7月に行われる密教の秘法である採燈大護摩供などの地域の文化を伝える行事が催されています。
- ・ 標高236メートルの籠岳山頂からは、北西方向に栗駒山や鬼首連峰、北には登米平野と迫川、東には北上川がゆったりと流れ、東南に石巻港や牡鹿半島を望み、西は大崎の穀倉地帯と薬菜山、船形山や奥羽山脈も遠望できる素晴らしい眺望が開けており、籠峯寺境内には樹齢9百年余りの夫婦杉や北側斜面にはカタクリの群生地、白山堂付近のどうだんつつじなど、四季折々の景観や自然が楽しめる場所となっています。また、籠峯寺に隣接する籠岳観光センターは町内にある数少ない宿泊施設の一つですが、日の出スポットとして有名であり、毎年初日の出の鑑賞者が多数訪れています。

- 市街地周辺には伊達一門の涌谷伊達家の歴史を伝える城跡や寺社が多く残り、街中では地域文化を伝える様々な催事が開催されています。

- ・ 近世は伊達一門の涌谷伊達家2万2千6百石の城下町であり、涌谷要害と呼ばれる城跡が残りその周辺は城山公園として、江合川堤防と一体となって桜の名所として町内外の人々に親しまれています。公園の一角には町のシンボルとして天守閣を模した史料館が設置されています。
- ・ 城下には宿場町が形成され地域経済の中心として賑わっていましたが、現在は宿場町の面影は残されていません。周辺には伊達家ゆかりの見龍寺や妙見宮（神明社）などの寺社があり、見龍院霊屋及び妙見宮拝殿は県の有形文化財に指定されています。
- ・ 城山公園・江合川堤防の桜まつりとメインイベントとして行われる東北輓馬競技大会、江合川河川敷で行われる夏の花火大会、八雲神社境内とくがね創庫前ふれあい広場で開催される伊達かつぱの里祭りなど、町民に親しまれている地域の様々なお祭りや催事が活発に行われています。

- 町民や町外の人にも親しまれる天然温泉や自然資源が豊富にあります。

- ・ 市街地の東端部には源泉掛け流しの日帰り温泉施設わくや天平の湯があり、年間15万人を超える利用者に親しまれています。温泉には黄金の里（わくや産直センター）が併設され、地場産の野菜や特産品が販売されています。
- ・ 町の北部、旧迫川の三日月湖を活用した涌谷町釣り公園が整備されており、毎年6月には100名前後が参加してへら鮒釣り大会が開催されています。また町の西部には相野沼が広がり、春の桜並木、夏の蓮、秋はバーベキューや芋煮会と町民の憩いの場となっています。

表 涌谷町の主要な観光資源一覧（その1）

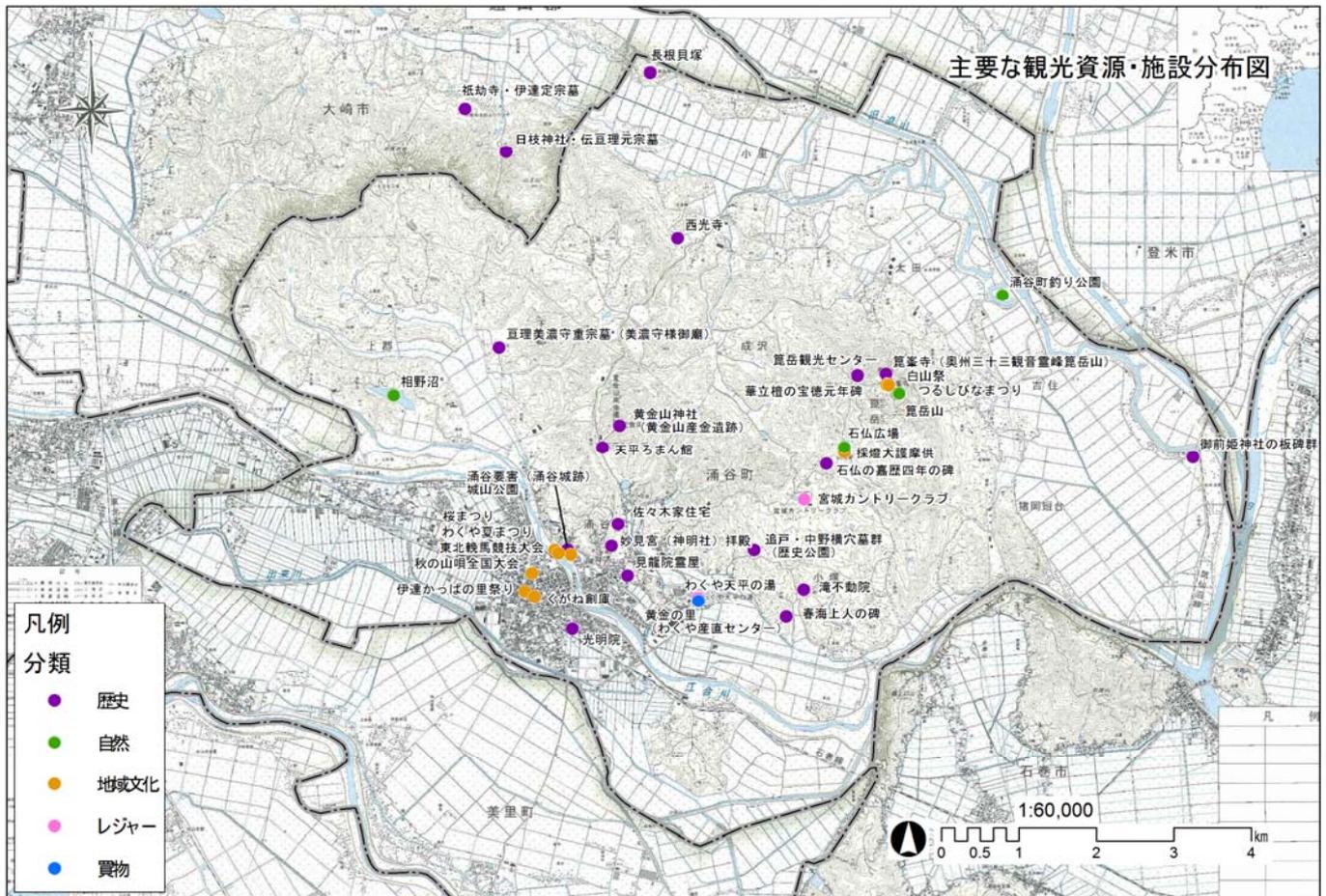
番号	名称	概要	利用・集客状況 (まちづくり推進課資料等) 上段：H26年、下段：H27年	分類	機能				
					歴史・風土	自然・風物	地域文化・生活	買い物・飲食	レジャー・レク
1	黄金山神社 (黄金山産金遺跡)	・日本最初の産金地(天平年間) ・東大寺大仏建設に九百両(13kg)を献上 ・国史跡		歴史	○				
2	天平ろまん館	・わくや万葉の里にH6年建設 ・産金をテーマとした展示、砂金採り体験場、直売所、郷土料理レストラン	6,473人 8,403人	歴史	○		○		
3	涌谷要害(涌谷城跡) 城山公園	・涌谷伊達家の居館跡、二万二千六百石の城下町 ・城山公園として整備、石垣・太鼓堂が往時を偲ばせる ・城下には宿場町が形成、地域経済の拠点だった ・天守閣を模した史料館	51,785人 8,540人	歴史	○		○		
4	篁峯寺(奥州三十三観音霊峰篁岳山)	・篁岳観音 ・坂上田村麻呂が清水寺より十一面観音を勧請して創建したと伝えられる。 ・観音堂、薬師堂、仁王堂、白山妙理堂	110,710人 90,300人	歴史	○		○		
5	篁岳山	・標高236m、栗駒山、船形山、奥羽山脈を遠望、登米平野、迫川、北上川、牡鹿半島を一望できる ・樹齢九百年余の親子杉(夫婦杉、太郎杉、次郎杉、三郎杉、四郎杉)、カタクリの群生地、どうだんつつじ		歴史	○	○			
6	追戸・中野横穴墓群 (歴史公園)	・町指定史跡 ・古墳時代末期(奈良時代から平安時代初期)	470人 380人	歴史	○				
7	長根貝塚	・国史跡 ・縄文時代早期末～晩期、約6000～2300年前)		歴史	○				
8	わくや天平の湯	・日帰り温泉施設 ・レストラン、小劇場、交流室を併設	166,657人 153,309人	レジャー			○		○
9	黄金の里 (わくや産直センター)	・わくや天平の湯と併設 ・地場産野菜、特産品の販売		買物				○	
10	白山祭	・県指定無形民俗文化財 ・篁峯寺白山社に伝わる神事(正月行事) ・古式により数百年にわたって伝承		地域文化	○		○		
11	つるしびなまつり	・篁岳山実相坊に1,000体以上のつるしびなが飾られる ・毎年4月15日から5月5日		地域文化			○		
12	桜まつり	・城山公園、江合川堤防 ・毎年4月中旬 ・ソメイヨシノの古木を主に、枝垂桜、山桜、泰山府君など		地域文化			○		○
13	東北鞍馬競技大会	・4月第3日曜日に桜まつりのメインイベントとして開催 ・城山公園下、江合川河川敷		地域文化			○		○
14	探燈大護摩供	・篁岳山石仏(いしぼとけ)広場 ・密教の秘法、毎年7月第2土曜日		地域文化	○		○		
15	わくや夏まつり	・大絵灯籠 ・花火大会(毎年8月14日、江合川河川敷)		地域文化			○		○
16	伊達かつぱの里祭り	・八雲神社境内とくがね倉庫ふれあい広場で開催 ・町内会中心のてづくりの祭り ・毎年7月下旬		地域文化			○		○
17	秋の山唄全国大会	・当地方に伝わる農作業唄を民謡作詞家故後藤桃水氏により編曲され、「秋の山唄」として全国の人々に唄われている ・毎年11月第2土・日曜日に開催	全国から200名超の参加者	地域文化			○		○
18	見龍院霊屋・見龍寺	・県有形文化財(建造物) ・寛文13年(1673年)上棟、屋根宝形造。総樺 ・涌谷伊達家菩提寺、見龍寺		歴史	○				
19	妙見宮(神明社)拝殿	・県有形文化財(建造物) ・元禄10年(1697年)創建、涌谷伊達家の氏神を祀る。 ・秋の例大祭には「古式獅子舞(町文化財)」が奉納		歴史	○		○		
20	くがね倉庫	・旧米倉庫を改修 ・芸術・文化の発表の場 ・2階にギャラリーを設置	10,372人 227人	地域文化			○		
21	涌谷町釣り公園	・旧迫川の三日月湖、周囲約1kmほどの馬蹄形の止水池 ・大小6個の浮き桟橋、毎年6月第3日曜日にへら鮎釣り大会		自然		○			○
22	相野沼	・春の桜並木、夏の蓮、秋から冬にかけてハクチョウなどの渡り鳥の飛来		自然		○			
23	石仏広場	・篁岳山 ・春は桜、夏は新緑、秋はバーベキュー・芋煮会等	10,700人 15,325人	自然		○			○
24	篁岳観光センター	・篁岳山篁峯寺に隣接する宿泊施設 ・涌谷町きっての日の出スポット		自然		○			
25	宮城カントリークラブ	・涌谷観光株式会社会の運営するゴルフクラブ、27ホール		レジャー					○

表 涌谷町の主要な観光資源一覧（その2）

番号	名称	概要	利用・集客状況 (まちづくり推進課資料等) 上段：H26年、下段：H27年	分類	機能				
					歴史・風土	自然・風物	地域文化・生活	買い物・飲食	レジャー
26	光明院	・涌谷伊氏の遠祖武石胤森の位牌を安置する浄土宗の名刹		歴史	○				
27	滝不動院	・瀧澤寺境内山崖に懸る滝の真下、池の中に安置された自然石上に不動尊像が立つ ・文明2年(1470)春海上人の勧請といわれる		歴史	○				
28	西光寺	・山門(薬医門)は、江戸中期の建築とみられ、町有形文化財に指定 ・真言宗の古刹		歴史	○				
29	日枝神社・伝巨理元宗墓	・社殿参道のご本杉のある場所が、初代の涌谷邑主である巨理元宗の墓といわれる		歴史	○				
30	祇・劫寺・伊達定宗墓	・臨済宗の名刹 ・涌谷邑主3代定宗の墓所		歴史	○				
31	巨理美濃守重宗墓(美濃守様御廟)	・涌谷2代の邑主、巨理重宗の墓所		歴史	○				
32	石仏の嘉歴四年の碑	・嘉歴4年(1329)の巨碑 ・阿弥陀三尊を種子(梵子)で雄渾に葉研彫りし、脇侍が控えている		歴史	○				
33	華立檀の宝徳元年碑	・高さ2m余り、幅2m弱の巨碑 ・阿弥陀三尊の種子を日輪の中に彫り、左上に法華経の偈がある。		歴史	○				
34	御前姫神社の板碑群	・鎌倉末室町初期の年号のある22基を含む39基の板碑 ・中世の大谷地の開墾史上貴重なもの		歴史	○				
35	春海上人の碑	・高さ約1.8m、幅1.3m		歴史	○				
36	佐々木家住宅	涌谷伊達家中の武家屋敷		歴史	○				

資料：涌谷町HP、涌谷町観光ガイド、観光ガイドブック、涌谷町まちづくり推進課資料 他

図 涌谷町の主要な観光資源分布図



(2) 涌谷町の観光入込客数の動向

涌谷町の主要な観光施設の年間入込客は、平成 27 年で天平の湯が約 15 万人、篁峯寺が 9 万人で、天平ろまん館と城山公園は 1 万人弱となっています。

涌谷天平の湯は震災の影響で平成 22 年に大きく減少しましたが、その後は安定的に年間 15 万人程度の入込客を維持しています。篁峯寺は 33 年に一度のご開帳の年であった平成 20 年に約 28 万人の入込がありました。近年は 10 万人前後で推移しており、やや漸減傾向にあります。

城山公園は春の桜まつりや夏まつりなどのイベント時の来客が多く、近年は年間 5 万人程度の入込がありました。平成 27 年には約 9 千人と落ち込んでいます。天平ろまん館は震災以前は 2 万～3 万人の入込でしたが、近年の落ち込みが激しく最近 1 万人に満たない入込状況です。

表 涌谷町の主要な観光施設の入込数の推移

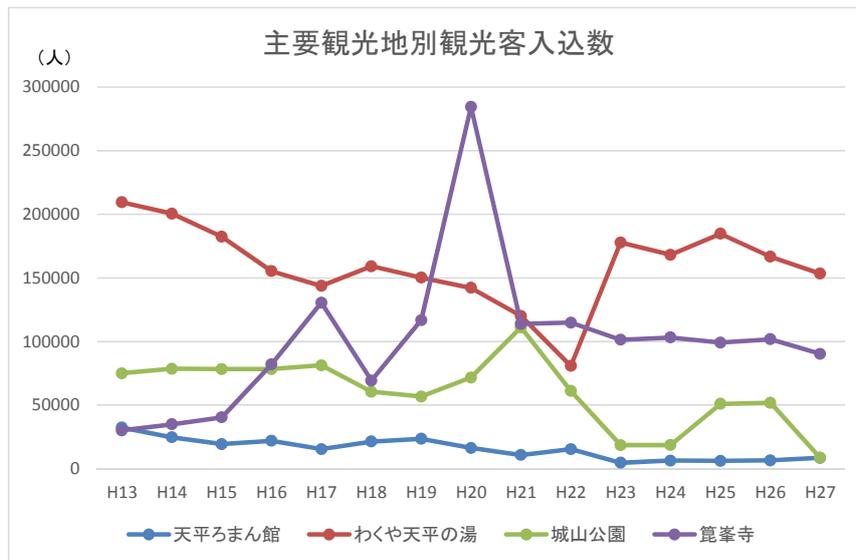
主要観光地	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
天平ろまん館	32,300	24,600	19,213	21,869	15,355	21,302	23,474	16,250	10,735	15,357	4,608	6,289	6,129	6,474	8,403
わくや天平の湯	209,500	200,500	182,350	155,336	143,773	159,178	150,238	142,133	120,134	80,709	177,752	168,133	184,707	166,657	153,309
城山公園	75,000	78,463	78,309	78,309	81,218	60,400	56,700	71,600	111,100	61,150	18,450	18,550	50,900	51,785	8,540
篁峯寺	30,000	34,800	40,300	82,000	130,500	69,300	116,800	284,500	113,800	114,800	101,350	103,100	99,100	101,710	90,300

※篁峯寺の平成20年の数値が大きいのは、33年に1度のご開帳の年であったためである。

資料：宮城県観光統計

※城山公園のH27年が大きく落ち込んでいる(要確認)

図 涌谷町の主要な観光施設の入込数の推移



(3) 町民の意向等

① 第五次涌谷町総合計画懇話会における町民の意見

町民の観光に関する意向を見ると、イベントの運営や企画の方法の改善、若者の参加によるイベントの効果を評価する声がありました。また、篁峯寺や篁岳、黄金の里などの自然、歴史資産をより活用すべきであるという意見が多く、「小田の古道」の復活や座禅体験学習の継続、景観農業の推進といった具体的な提案もありました。

さらに、マイクロバスを使った一日観光コースの設定、城山の金さんの相棒となる新しいゆるキャラの創出、町民への街の魅力の再認識と人材の活用などのPRや情報発信力のアップなどの提案のほか、道の駅の整備による魅力創出についての意見もありました。

②第五次涌谷町総合計画町民アンケートによる町民意向

満足度・重要度の評価については、観光の満足度は低く、重要度の認識もそれほど高くありません。しかしながら、自然の充実についての満足度は高くなっています。

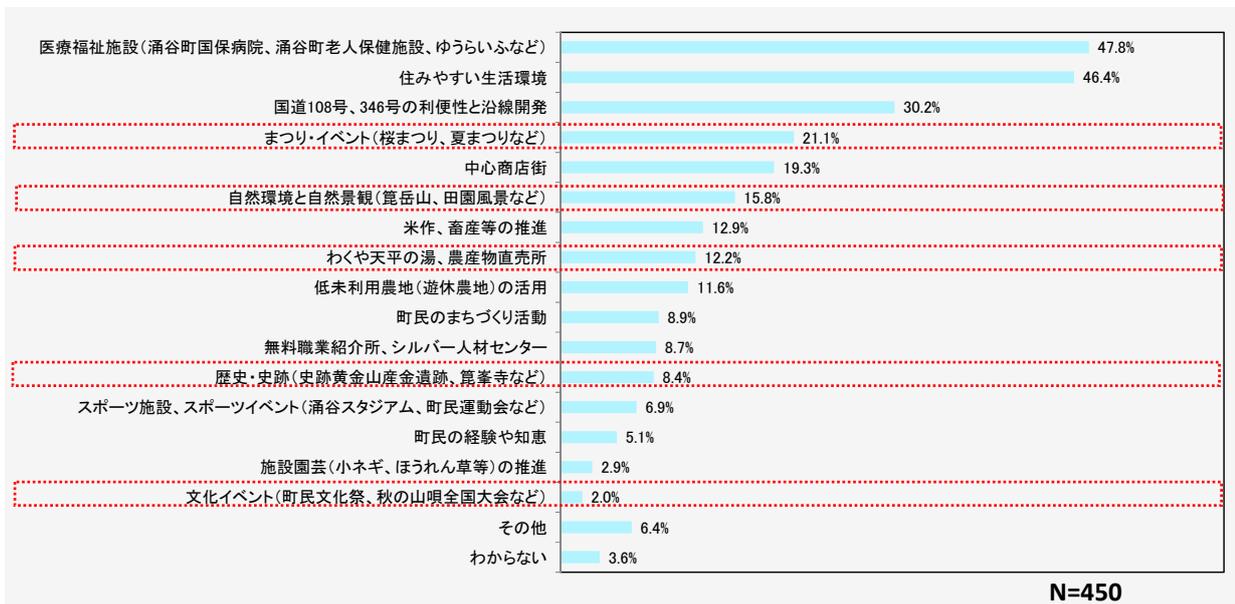
まちづくりの資源として、祭り・イベントの評価は比較的高く、自然環境、わくや天平の湯が次いで高くなっていますが、歴史資源の評価はやや低くなっています。

今後の施策としては、観光やイベントの充実及び自然や歴史資源の活用は比較的高い評価となっています。町民のまちづくりへの参加意向では、イベントや祭りが最も高く、景観・緑化、歴史・文化維持についても比較的高くなっています。

図 項目別満足度・重要度



図 まちづくりの有効活用資源



(4) 涌谷町の観光振興に関わる課題

日本の観光の動向や本町の観光特性を踏まえて、本町の観光振興に関わる課題を整理すると以下のようによまとめられます。

① 日本人観光客への対応

宮城県の誘客範囲は県内（5割強）及び東北6県（約7割）で、身近な圏域内での日帰り旅行・複数回来訪が特徴です。交通手段も自動車利用が約7割と圧倒的に多くなっています。

また、本町は広域的な観光ネットワークからはずれた立地にあり、周遊観光コースにはなりづらいことから、自動車によるアクセスの利便性、魅力の向上を図るとともに、周辺観光地と連携した広域観光周遊ルートの創設が課題です。

② 訪日外国人観光客の誘致戦略

東北地域の訪日外国人観光客の中では、台湾からの旅行客が約3割で最も多くなっています。台湾は親日国であることや台湾と仙台空港を結ぶ直行便の就航などが背景として考えられ、また、宮城県としても台湾の修学旅行誘致強化を図っていることも要因の一つと考えられます。

震災の影響で訪日外国人観光客数が減少した国もありますが、台湾、アメリカ、中国、タイは震災前に比べて旅行延べ人員が増加しており、今後も誘客対象国としての期待が大きいですといえます。

涌谷町については、天平ろまん館に台湾からの来客があるほか、国際友好都市の一つであるアメリカ合衆国カリフォルニア州サリナス市からの中学生や、韓国からのホームステイ受け入れの実績があります。

国の観光施策としても訪日観光の拡大を目指して様々な施策を展開しており、涌谷町としても訪日の期待が大きい国の観光客や国際友好都市との交流実績を活用して、外国人観光客のニーズに対応した観光資源・企画の充実を図り、受け入れ体制を整備することが課題です。

③ 食の“わくやブランド”の創出

国内外観光客のいずれにおいても、地方都市観光の来訪目的は「郷土料理やその土地でとれた食材（肉、魚、野菜、果物など）を味わう」といった「食」への関心が高くなっています。

涌谷町では、既に「涌谷まち・ひとデザインラボ」において町の地域資源・農作物を活用し、世界に通用する“わくやブランド”の商品開発に取り組んでいます。

また、「生薬を活かした健康まちづくり」の一環として、「涌谷町生薬まちづくりの会」により町内での生薬の自家栽培や漢方薬・薬膳料理への活用推進、啓蒙活動により町民の健康づくりへの成果を挙げつつあり、今後は、地元産生薬を使った商品や薬膳料理などについて「食と健康」をキーワードとした“わくやブランド”として観光に活用していくことが期待できます。

④ 町内の人材の活用と育成

第五次涌谷町総合計画町民懇話会において、今後のまちづくりにおける人材活用が指摘されています。「涌谷まち・ひとデザインラボ」では、多くの町民が意欲的に参加しており、また、第五次涌谷町総合計画町民アンケートからも、まちづくり活動の中でイベントや祭り、次いで景観・緑化、歴史・文化維持に対する参加意欲が高い結果となっており、これらの意欲ある町内の人材を活かし、今後の観光を担う人材の育成していくことが重要です。

⑤ 観光施設・資源の訴求力アップ、魅力の充実

涌谷町の観光資源で年間入込客数が約 10 万人以上あるのは篁峯寺と天平の湯ですが、全国的には認知度は低くやや訴求力には欠けます。天平ろまん館は台湾などの海外からの観光客もあるものの、総じて客層は町内、周辺市町村からの利用が大半です。

今後、既存観光資源の魅力をさらに充実させるとともに、新たな地域資源の発掘、農業や健康といった幅広い分野との連携により、涌谷町独自の魅力を創出し観光の訴求力を高めることが課題です。

⑥ 効果的な P R、情報発信

多くの人々が情報をインターネットで入手する時代となり、観光においても情報入手の手段としてインターネットは重要な情報源であることから、情報発信の手段としてもインターネットを中心とした効果的な P Rが必要となっています。

第4章 観光振興の将来像と基本方針

(1) 観光振興の将来像

こがね 黄金の里でみかく宝物

～涌谷でわくわく体験、きらきら体感～

日本初の産金地である上に、秋には周囲に広がる黄金色の稲穂の景観、篁岳からの値千金の風景や日の出など、涌谷にはまさに「黄金の里」の名にふさわしい風景が広がっています。

そして涌谷では、驚きの経験や知識、他では味わえない地の味覚、さらに様々な人たちとの交流が待っています。天平ろまん館で砂金を磨く、篁峯寺の座禅体験・精進料理で心を磨く、天平の湯でお肌を磨く、ウォーキングで足腰を磨くなど、涌谷でのわくわくする体験は、訪れた人の心と身体を磨き上げ、きらきらとした体感として宝物になります。

<将来像の概念図>



(2) 観光振興の基本方針

観光振興の将来像を踏まえて、課題を克服し、観光振興を図るための視点として、下記の3つのポイントが挙げられます。

- 観光客をいかにして誘致し観光を活性化させるか
- 町の観光資源や施設を、来訪者にとっていかに魅力あるものに充実できるか
- 町の観光を支えるサポーターやおもてなしを担う人材をどう育て、ノウハウをどう蓄積していくか

これらの視点に基づき、観光振興の基本方針を以下のように設定します。

① 独自のわくやブランドの創出、^{こがね}黄金の里の魅力の増進

日本初の産金地としての歴史や資産、篁峯寺に代表される信仰の歴史を伝える文化遺産、涌谷伊達家の城下町としての歴史、篁岳山や江合川、旧迫川などに代表される美しい自然とそこで培われた涌谷の生活風土など、個性的な独自の観光資源を一層魅力あるものとして磨き上げる。

さらに、「かがやく協働まちづくり事業」や「涌谷町生薬まちづくりの会」などの動きと連携し、町民の意欲や能力の発揮のもとに独自のわくやブランドの創出を目指します。

② 東北の主要な観光地を巡る広域観光客の誘客戦略の構築と

効果的な観光PRの展開

近隣の著名な観光地を巡る観光客を町内に引き込むための誘致戦略の展開とともに、外国人のニーズに対応できる設備や受け入れ体制の整備、これらを広く認知してもらえるような効果的なPRを展開します。

③ 涌谷のおもてなしを担う人材育成とリピーターや身近な涌谷ファンの創出

観光ボランティアガイドやコンシェルジュ、さらに農家民宿や農家レストラン、特産品の販売など、おもてなしを担う人材の育成を行うとともに、涌谷の未来を担う子どもたちに町の歴史や魅力を伝えていきます。

また、町内及び近隣住民にとって、日常的なレクリエーションの場として楽しめる空間整備を行い、リピーターや身近な涌谷ファンを増やします。

第5章 主要施策の設定

観光振興の基本方針に基づき、主要施策を以下のように設定します。

(1) 独自のわくやブランドの創出、^{こがね}黄金の里の魅力の増進

① 日本初の産金地としての歴史を伝えるとともに、涌谷の産金のルーツと我が国の金文化を伝承するための拠点としての魅力の創出

- ・ 砂金採取の復元、東大寺大仏の建立や黄金山神社の由来、韓国からの金にまつわる技術の伝承
- ・ 奈良の東大寺との連携と相互交流の推進
- ・ 金文化の盛隆地の平泉のほか気仙沼や陸前高田との4市町による金でつながる広域連携の推進
- ・ 東北地方の砂金採りや宝石採取体験等のできる観光地とのネットワークの構築
- ・ 天平ろまん館の砂金採り体験プログラムの充実



「黄金山神社」(涌谷町 HP より、
以下写真の出典は特に記載がない限りは同じ)



「天平ろまん館」



「砂金採り体験」

② 篔岳及び篔峯寺周辺の魅力増強のための整備

- ・ 篔岳からの東北の山々や周囲に広がる黄金色の稲穂の展望、正月の初日の出、四季折々の自然や風景を楽しめる展望広場の整備
- ・ 篔岳の自然や篔峯寺などの歴史に触れることのできる散策路や遊歩道等の整備
- ・ 篔峯寺十一面観音は福島、宮城、岩手に広がる奥州三十三観音の一つとして、奥州三十三観音巡礼のネットワークを構築



「篔岳からの展望」



「篔岳のかたくり」



「篔峯寺」

③ 涌谷伊達家の城下町としての歴史の伝承、街並みや歴史資産の魅力の増進

- ・ 涌谷伊達家の歴史を伝える涌谷要害、見龍寺、妙見宮などの寺社とともに、現存する武家屋敷の保存や修復
- ・ 昔の街並みのイメージを目指し、街道筋の建物のデザインコントロールによる街並み形成



「涌谷城跡」



「見龍寺」



「妙見宮」

④ 地域資源を活用した「わくやブランド」の創出

- ・ 「涌谷まち・ひとデザインラボ」における活動を活かし、町の特産品や農産物を使った“わくやブランド”の商品開発の推進
- ・ 「涌谷町生薬まちづくりの会」の活動と連携し、地元産生薬を使った商品開発、薬膳料理の普及や健康情報の発信、調理体験の企画等



「デザインラボによる商品開発風景」



「薬膳料理講習会風景」

⑤ 資源・施設の新たな魅力の付加やネットワーク化

- ・篁峯寺の座禅体験・精進料理、篁岳山などの自然観光資源を巡るヘルスウォーキング、農業体験・観光農園等との連携
- ・「健康と福祉のまち」として先進的なサービスが充実した保健・医療・介護・福祉拠点と上記を組み合わせた「健康づくり観光プログラム」の構築
- ・わくや天平の湯を中心とした観光拠点の整備（わくや産直センターの設置、レンタサイクルシステムの構築、町内の観光ルート等の拠点、観光案内・情報センター、ボランティアガイドセンター、薬膳料理レストラン、日帰り美人温泉としての魅力アピール、研修館を活用した宿泊施設の充実等）
- ・「おおさき古道※」のうち涌谷町内を通る3古道の復活、古道に沿った施設を巡る“いにしへの古道巡り”散策ルートの設定

※宮城県北部地方振興事務所における「おおさき古道調査プロジェクト」（H21～23）においてとりまとめられた、大崎地域1市4町（大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町）を通る13の古道（宮城県HPより）



「古川小野道」
〔大崎市古川～美里町福田〕



「涌谷登米道」
〔涌谷～涌谷登米境（米山）〕



「和刈一関道」
〔石巻市和刈～涌谷登米境（豊里）〕



「座禅体験」



「医療福祉センター」



「わくや天平の湯」

(2) 東北の主要な観光地を巡る広域観光客の誘客戦略の構築と効果的な観光PRの展開

① 周辺の主要な観光拠点と結ぶ広域周遊観光ルート of 企画、PR

- ・鳴子・鬼首、松島、三陸海岸などの周辺の主要な観光地とタイアップし、周遊観光の企画を立案、広域周遊マップの作成
- ・観光地を巡り食事や様々なイベント参加、お土産品等の特典を付与するなどの共同キャンペーンを展開

② 涌谷の観光案内やPRの拠点の整備

- ・自動車での来訪者に対する観光案内や特産品の販売、観光情報の提供などの拠点となる「道の駅」の整備構想の調査実施
- ・JR 駅舎、街中の空き家や空き店舗等を活用した観光情報センター機能等の整備・充実
- ・観光客のニーズに対応したパンフレット・サイン計画の作成



「JR 涌谷駅」

③ 外国人観光客の受け入れ体制の整備と外国人のニーズへの対応

- ・外国人向けの多言語のパンフレット作成、わかりやすいサイン計画の作成、音声ガイド等の設備の充実
- ・外国語を話せるガイドの育成やボランティアの養成
- ・wifi 環境の整備

④ インターネットや様々なメディアを活用した情報発信の充実・強化

- ・web サイトの充実、他の観光地との情報の相互連携
- ・twitter や YouTube、Facebook などのインターネットメディアの活用による国内外への積極的な情報発信
- ・旅行ブロッガーを招待して記事にしてもらうなどの口コミ情報の活用
- ・TV、新聞などのマスメディアの活用、観光情報の広告
- ・様々な季節の風景や祭り・催事の様子、過去の風物や暮らしなどを仮想体験できる VR 環境の整備
- ・国内外の旅行会社へのPR

(3) 涌谷のおもてなしを担う人材育成とリピーターや身近な涌谷ファンの創出

① 観光ガイド、広報、PR、観光マネジメントを担う人材育成

- ・観光コンシェルジュなど町民のボランティアで観光客の案内や町外で涌谷町をPRできる人材の養成
- ・子供たちが故郷の歴史や風土を学び、涌谷に対する愛着や知識を深めることのできるプログラム・教材・テキストの作成を通じた、子供の頃からの観光ガイド教育の展開
- ・黄金大使の一層の活用、PR



「黄金大使のベガルタ仙台マスコット
べがっ太くと城山の金さん」

② 民泊、農家レストラン、体験農場などによるおもてなしを担うノウハウの構築、人材の育成

- ・空き部屋や空き家の活用などにより、街なかや集落における民泊の担い手の育成
- ・涌谷町の資源の一つである農業と観光をマッチングしていくため、農家レストランや体験農場等の担い手の育成



「農家レストランの事例
(宮城県HPより)」

③ 海外の修学旅行、地域の小中学校を対象とした滞在型の体験学習

- ・簗峯寺における宿坊合宿・座禅体験、農業体験、産金の歴史の学習等の滞在型の体験学習



「涌谷ふれあい農園（農業体験）」

④ 町民や周辺市町村住民が季節に応じて親しめるレクリエーション環境を整備し、涌谷へのリピーターや身近な涌谷ファンの創出

- ・ファミリー向けのレクリエーションやバーベキューなど、町民が利用しやすい身近な施設の整備・充実（釣り公園、相野沼、石仏広場など）
- ・篁岳山の自然に親しむことのできる施設の充実（ウォーキングやハイキングコースの整備、休憩施設等の整備）



「釣り公園」



「相野沼」



「石仏広場」

第6章 重点施策の設定

基本方針に基づき設定した主要施策を下記の視点から評価し、本町の観光振興に関わる重点施策を設定します。

視点1：観光振興の将来像を実現するための戦略としての効果

- ・「^{こがね}黄金の里」にふさわしい魅力の増進への寄与度
- ・わくわく体験、きらきら体感を具現化する五感への訴求度

視点2：観光地としての個性化や独自性への効果

- ・涌谷ならではの個性、独自の魅力の創出効果
- ・他地域との違い、特色づくり

視点3：住民のアイデンティティや町への愛着心の醸成

- ・わが町の誇り、自慢の種となる可能性
- ・次世代に引き継ぐことのできる有形・無形の資産として価値

以上の3つの視点ごとに3ランクの評価を行い、3つの視点を合わせて総合評価とします。

- ◎：大きな効果が期待できる
- ：一定の効果は期待できる
- 空欄：特段の効果は期待できない

総合評価においては、◎が三つ以上のものを重点施策として位置づけます。

重点施策の評価

[評価]

◎：大きな効果が期待できる ○：一定の効果は期待できる 空欄：特段の効果は期待できない

項	目	戦略的 施策	個性化・ 独自性	住民アイ デンティ ティ醸成	総合評価
(1) 独自の涌谷ブランドの創出、^{こがね}黄金の里の宝物の魅力の増進					
① 日本初の産金の地としての歴史を伝えるとともに、涌谷の産金のルーツと我が国の金文化を伝承するための拠点としての魅力の創出					
	・砂金採取の復元、東大寺大仏の建立や黄金山神社の由来、韓国からの金にまつわる技術の伝承	◎	◎	◎	重点施策
	・奈良の東大寺との連携と相互交流の推進	◎	◎	◎	重点施策
	・金文化の盛隆地の平泉のほか気仙沼や陸前高田との4市町による金でつながる広域連携の推進	◎	◎	◎	重点施策
	・東北地方の砂金採りや宝石採取体験等のできる観光地とのネットワークの構築	◎	◎	○	
	・天平ろまん館の砂金採り体験プログラムの充実	◎	◎	○	
② 簗岳及び簗峯寺周辺の魅力増強のための整備					
	・簗岳からの四季折々の自然や風景を楽しめる展望広場の整備	◎	◎	◎	重点施策
	・簗岳の自然や簗峯寺などの歴史に触れることのできる散策路や遊歩道等の整備	◎	◎	◎	重点施策
	・簗峯寺十一面観音は奥州三十三観音巡礼のネットワークを構築	◎	○	○	
③ 涌谷伊達家の城下町としての歴史の伝承、街並みや歴史資産の魅力の増進					
	・涌谷伊達家の歴史を伝える涌谷要害、見龍寺、妙見宮などの寺社とともに、現存する武家屋敷の保存や修復	○	◎	◎	
	・昔の街並みのイメージを目指し、街道筋の建物のデザインコントロールによる街並み形成	○	◎	◎	
④ 地域資源を活用した「わくやブランド」の創出					
	・町の特産品や農産物を使った“わくやブランド”の商品開発の推進	◎	◎	◎	重点施策
	・地元産生薬を使った商品開発、薬膳料理の普及や健康情報の発信、調理体験の企画等	○	◎	◎	

項	目	戦略的 施策	個性化・ 独自性	住民アイ デンティ ティ醸成	総合評価
⑤資源・施設の新たな魅力の付加やネットワーク化					
	・ 涌谷町内を通るおおさき3 古道の復活、古道に沿った施設を巡る“いにしへの古道巡り” 散策ルートの設定	○	◎		
	・ 篁峯寺の座禅体験・精進料理、篁岳山などの自然観光資源を巡るヘルスウォーキング、農業体験・観光農園等との連携	◎	◎	◎	重点施策
	・ 先進的なサービスが充実した保健・医療・介護・福祉拠点と組み合わせた「健康づくり観光プログラム」の構築	○	◎	◎	
	・ わくや天平の湯を中心とした観光拠点の整備	◎	◎	◎	重点施策
(2) 広域観光客の誘客戦略の構築と効果的な観光PRの展開					
①周辺の主要な観光拠点と結ぶ広域周遊観光ルートの企画、PR					
	・ 主要な観光地とタイアップした周遊観光の企画、広域周遊マップの作成	◎	○		
	・ 特典を付与するなどの共同キャンペーンの展開	◎	○		
②涌谷の観光案内やPRの拠点の整備					
	・ 「道の駅」の整備構想の調査実施	◎	◎	◎	重点施策
	・ JR 駅舎、街中の空き家や空き店舗等を活用した観光情報センター機能等の整備・充実		○	○	
	・ 観光客のニーズに対応したパンフレット・サイン計画の作成	○	○		
③外国人観光客の受け入れ体制の整備と外国人のニーズへの対応					
	・ 外国人向けの多言語のパンフレット作成、わかりやすいサイン計画、音声ガイド等の設備の充実	◎	○		
	・ 外国語を話せるガイドの育成やボランティアの養成	○		◎	
	・ wifi 環境の整備	○			
④インターネットや様々なメディアを活用した情報発信の充実・強化					
	・ web サイトの充実、他の観光地との情報の相互連携	◎			
	・ twitter や YouTube、Facebook などのインターネットメディアの活用による国内外への積極的な情報発信	◎	◎	◎	重点施策
	・ 旅行ブロガーを招待して記事にしてもらうなどの口コミ情報の活用	◎	○		

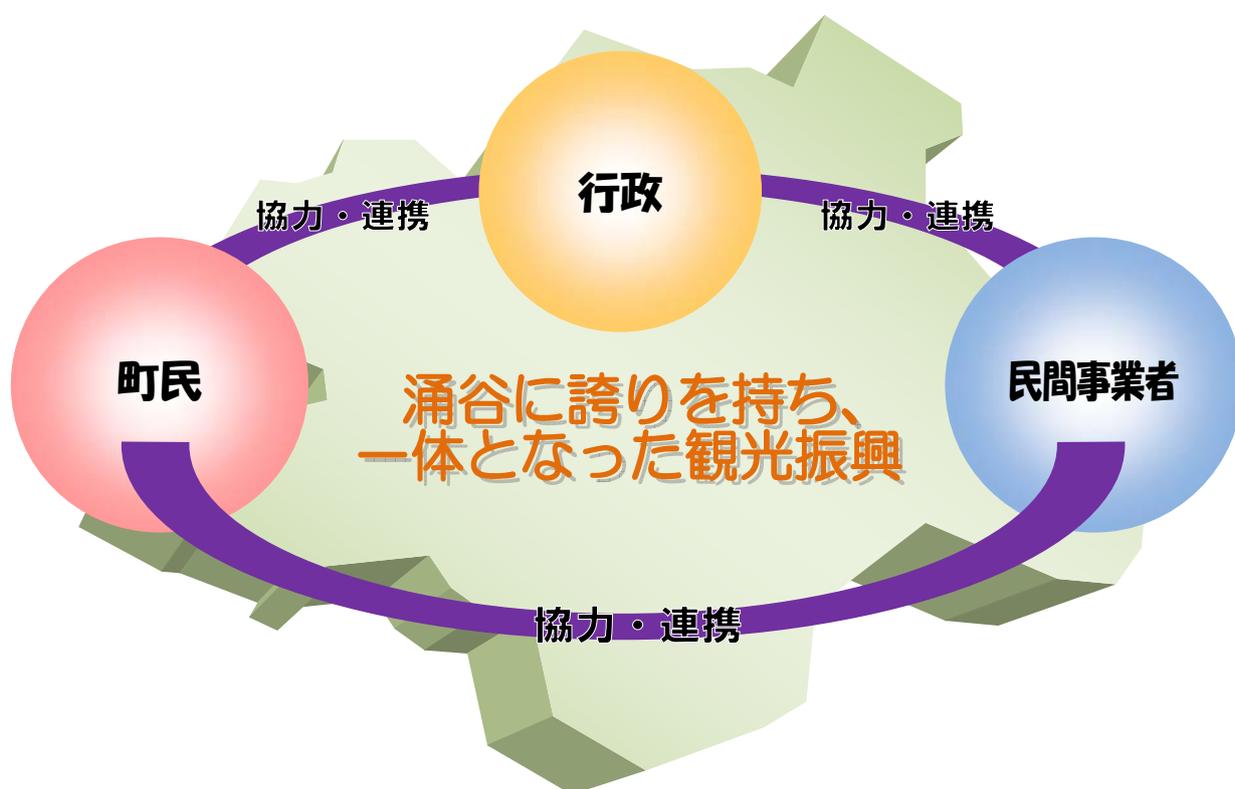
項	目	戦略的 施策	個性化・ 独自性	住民アイ デンティ ティ醸成	総合評価
	・ TV、新聞などのマスメディアの活用、観光情報の広告	◎	○		
	・ 様々な季節の風景や祭り・催事の様子、過去の風物や暮らしなどを仮想体験できる VR 環境の整備	○	◎		
	・ 国内外の旅行会社への PR	○			
(3) わくやのおもてなしを担う人材育成とリピーターや身近な涌谷ファンの創出					
① 観光ガイド、広報、PR、観光マネジメントを担う人材育成					
	・ 観光コンシェルジュなど町民のボランティアで観光客の案内や町外で涌谷町を PR できる人材の養成	◎	○	◎	
	・ 子供たちが故郷の歴史や風土を学び、涌谷に対する愛着や知識を深めることのできるプログラム・教材・テキストの作成を通じた、子供の頃からの観光ガイド教育の展開	◎	◎	◎	重点施策
	・ 黄金大使の一層の活用、PR	○	○		
② 民泊、農家レストラン、体験農場などによるおもてなしを担うノウハウの構築、人材の育成					
	・ 空き部屋や空き家の活用などにより、街なかや集落における民泊の担い手の育成	◎	◎	◎	重点施策
	・ 農業と観光をマッチングしていくため、農家レストランや体験農場等の担い手の育成	◎	◎	◎	重点施策
③ 海外の修学旅行、地域の小中学校を対象とした滞在型の体験学習					
	・ 篁峯寺における宿坊合宿・座禅体験、農業体験、産金の歴史の学習等の滞在型の体験学習	◎	◎	◎	重点施策
④ 町民や周辺市町村住民が季節に応じて親しめるレクリエーション環境を整備し、涌谷へのリピーターや身近な涌谷ファンの創出					
	・ 町民が利用しやすい身近な施設の整備・充実（釣り公園、相野沼、石仏広場など）	○	◎	◎	
	・ 篁岳山の自然に親しむことのできる施設の充実（ウォーキングやハイキングコースの整備、休憩施設等の整備）	○	◎	◎	

第7章 推進体制と進行管理

(1) 計画の推進体制

本計画の推進のため、庁内関係各課の横断的な協力体制を強化するとともに、町民（自治会や各種団体等）及び民間事業者（観光に關係する農・商・工の事業者等）と協力・連携して推進体制を構築し、町の持続的な発展に向けて、涌谷に誇りを持ち、一体となって観光振興に取り組みます。

<行政・町民・民間事業者による推進体制>



(2) 観光振興に関わるプロジェクトの編成

設定した14の重点施策について、対象や目的から分類し、以下の4つのプロジェクトを構成します。プロジェクトごとに市内の横断的な推進チームを編成し、責任をもってプロジェクトを推進します。

●プロジェクト1：^{こがね}黄金の里の文化伝承プロジェクト

涌谷の黄金文化の中核をなすプロジェクトとなります。天平ろまん館における歴史資料の充実や産金の歴史を共有する自治体との連携の推進、奈良の大仏を取り巻く連携の具体的なあり方と涌谷の観光振興への活用の仕方などについて検討します。

【関連する重点施策】

- ・砂金採取の復元、東大寺大仏の建立や黄金山神社の由来、韓国からの金にまつわる技術の伝承
- ・奈良の東大寺との連携と相互交流の推進
- ・金文化の盛隆地の平泉のほか気仙沼や陸前高田との4市町による金でつながる広域連携の推進

●プロジェクト2：篁岳・篁峯寺周辺の魅力増進プロジェクト

歴史と文化、自然資源のつまった篁岳及び篁峯寺周辺を、「体験と体感」の集積エリアとして魅力の充実を図り、わくや観光の売り物にするためのプロジェクトとなります。そのための既存資源・施設の充実、新たな整備内容、観光企画などを総合的に検討します。

【関連する重点施策】

- ・篁岳からの四季折々の自然や風景を楽しめる展望広場の整備
- ・篁岳の自然や篁峯寺などの歴史に触れることのできる散策路や遊歩道等の整備
- ・篁峯寺の座禅体験・精進料理、篁岳山などの自然観光資源を巡るヘルスウォーキング、農業体験・観光農園等との連携

●プロジェクト3：わくやブランドの創出と観光拠点整備プロジェクト

涌谷の名物となるお土産物や飲食品の創出を行うとともに、観光のPRや情報の拠点となる道の駅の実現を目指すプロジェクトとなります。道の駅については「わくや天平の湯」との一体性や相乗効果を図りうる施設としての可能性について検討します。

【関連する重点施策】

- ・町の特産品や農産物を使った“わくやブランド”の商品開発の推進
- ・わくや天平の湯を中心とした観光拠点の整備
- ・「道の駅」の整備構想の調査実施

●プロジェクト4：わくやの魅力発信と人材育成プロジェクト

情報発信やPR戦略、人材の発掘や育成などのソフト戦略を主として担うプロジェクトとなります。人材の発掘や育成に関しては、即効的な効果を期待するのではなく、長期的に地道な取組が必要となります。そのため目的に応じた段階的なプログラムの開発についても検討します。

【関連する重点施策】

- ・ twitter や YouTube、Facebook などのインターネットメディアの活用による国内外への積極的な情報発信
- ・ 子供たちが故郷の歴史や風土を学び、涌谷に対する愛着や知識を深めることのできるプログラム・教材・テキストの作成を通じた、子供の頃からの観光ガイド教育の展開
- ・ 空き部屋や空き家の活用などにより、街なかや集落における民泊の担い手の育成
- ・ 農業と観光をマッチングしていくため、農家レストランや体験農場などの担い手の育成
- ・ 篁峯寺における宿坊合宿・座禅体験、農業体験、産金の歴史の学習等の滞在型の体験学習

(3) プロジェクト推進プロセス

観光振興施策を行政及び町民、民間事業者が一体となって、次のようなプロセスに基づいて推進していくものとします。

① プロジェクト推進チームの編成

- ・重点施策を推進するための詳細な計画を策定し事業化を図るためには、軌道に乗せるまでの期間に精力的に活動する検討チームが必要となります。
- ・そのため、庁内の関連する部門や庁内公募等により、各プロジェクトを推進するためのチームを編成します。
- ・チームリーダーは、最も関係の深い部門から選出し、プロジェクト推進に責任をもって対応します。

② プロジェクト推進プログラムの検討

- ・事業化を図るまでには次のような内容について、各チームにおいて精力的に検討を行います。

- プロジェクト推進のための詳細な事業内容（コンテンツ・ターゲット等）の検討
- 各事業を推進するための短期、中期、長期の目標と実施プログラムの検討
- 事業ごとの事業規模、概算事業費の検討
- 推進メンバーや庁内体制の検討
- 町民、民間事業者等への協力・連携の依頼

- ・必要に応じて検討状況を公開し、外部意見等を取り入れながら検討を進めます。

③ 当面進めるべき事業の取組

- ・概ね5年以内に着手すべき事業についてより詳細な検討を行います。
- ・事業実施のための庁内の合意形成、町民の理解や協力の働きかけを行います。
- ・事業化のための詳細な事業計画（事業規模や事業費、事業スケジュール）を立案します。
- ・上記の事業計画を踏まえて、事業を実施します。

④ 町民、民間事業者や外部機関等との連携

- ・実効ある施策展開のために、町民や自治会等との協働により取り組みます。また、町民等においても涌谷の歴史・文化等について学ぶことにより、町に対する興味・理解を深めることが求められます。
- ・民間事業者や旅行会社等の外部機関、周辺自治体のほか東大寺サミットや金に関連する自治体との協力・連携体制を構築します。
- ・プロジェクト推進のプロセスの中で必要となる対象を洗い出し、働きかけや組織化等を進めます。
- ・「かがやく協働まちづくり事業」や「涌谷町生薬まちづくりの会」などの実際に動いている町民の自主的組織との協力・連携体制を構築し、必要に応じて支援を行います。

<推進プロセスのスケジュールイメージ>

推進プロセス	H29 (2017) 年度	H30 (2018) 年度	H31 (2019) 年度	H32 (2020) 年度	H33 (2021) 年度
①プロジェクト推進チームの編成					
②プロジェクト推進プログラムの検討					
③当面進めるべき事業の取組					
④町民、民間事業者や外部機関等との連携					

(4) 計画の進行管理

本計画を着実に推進し、その進行管理を行うため、「涌谷町まち・ひと・しごと創生総合戦略（目標年度：平成 31 年度）」の基本目標と整合させて、平成 33 年度までの本計画の目標値を以下のとおり設定します。

また目標値の達成に向けて、プロジェクト推進チームにおいて、PDCA サイクルに基づく各種施策や事業の評価検証や考察を行い、計画の実効性を確保します。

<計画の目標値>

総合戦略の項目	数値目標	現況値 (H26)	目標値	
			総合戦略 目標年度(H31)	観光振興計画 目標年度(H33)
【基本目標】 わくや交流の推進	観光客入込数	404,374 人	424,592 人	432,600 人
	宿泊客入込数	689 人	723 人	750 人

<PDCA サイクル>

PLAN（計画）、DO（実施）、CHECK（評価）、ACTION（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法

